

原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ
復興対策基礎基盤研究プログラム
事後評価総合所見

評価の概要	
<p>研究課題名：「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行 研究代表者（研究機関名）：木村 浩（平成 24 年度：東京大学、平成 25～26 年度：特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチ） 再委託先研究責任者（研究機関名）：土田 昭司（一般社団法人日本原子力学会） 再委託先研究責任者（研究機関名）：神崎 典子（平成 24 年度：特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチ） 研究期間及び研究費：平成 24 年度～平成 26 年度（3 年計画） 68 百万円</p>	
項 目	要 約
1. 研究の概要	<p>市民と専門家に対する社会調査をベースとしたコミュニケーション・フィールド（「フォーラム」と呼ぶ）を構築し、参加者への意識調査から、フォーラム参加によるダイナミックな意識・態度・信頼の変容を明らかにするとともに、「原子カムラ」の境界を越えるためのフォーラムの枠組みおよび必要になる社会要件の探索を目的として研究を実施した。</p>
2. 総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>本研究において一般化のための手法を実際に開発したことを評価する。より実践的な局面に応用するにはまだ課題が残されていることを認識して研究をより推進されること、また、研究成果の外部発表を多様化・加速化されることを期待する。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない</p>